並木幼稚園だより

［建学の精神］
感性の豊かな「日本の心」を
持った真の国際人の育成

令和７年度　１０月号
学校法人志賀学園並木幼稚園
発行者：園長　菊地　誠

愛の手紙　善意の行動

毎年，この時期になると思い出す人がいます。静岡県にお住いの「朗人の幸子さん」というご婦人です。14 年前，東日本大震災から半年ほど経った頃の事です。当時，並木幼稚園の近くのM小学校に勤務していました。いまだ放射線量が高く，子どもたちは，外での活動２時間ルールなど制限の多い中で学校生活を送っていました。そうした震災後のM小の様子がニュース番組で放送され，番組をご覧になった「朗人の幸子」さんが，次のようなメッセージと義援金を送ってくださいました。

「M小の皆さんへ。私は静岡県に住む 72 歳の老人です。先日，テレビでM小の事が放送され，前向きにがんばっている皆さんや学校の様子を知りました。東日本大震災の影響で，毎日，不自由があったり，困ることもあったりされていると思います。でも，必ず『ああ，良かった』と思える時が来ると思います。体を大切にして，どうか元気でお友達と仲良く助け合って過ごしてください。義援金は少額ですが，子どもたちに本でも買ってあげてください。(本文より)」

「老人」は嫌なので「朗らかな人」の「朗人」の幸子です。と書かれており，住所，氏名が書かれていない封筒に，手紙と３万円が入っていました。

翌年の事です。幸子さんから前年に引き続き，お手紙と義援金が届きました。

「M小の先生方，生徒さん，皆さんお元気ですか？一年が過ぎたとはいえ，多くの方がじっと耐えて，今も暮らしているのではと胸が痛む思いです。私は年金暮らしの 73 歳ですが，少しばかり，その中から貯めたお金少々ですが，生徒さんのために使ってくだされば と思い，送ります。(本文より)」

その翌年も，同じように３回目の励ましの手紙と３万円の義援金が送られてきました。M小では，３回送られてきた義援金は，子どもたちが読書に親しむことができるよう，図書の購入に充て，図書室に「朗らか文庫」として設置し，図書を大切に読み継いでいくことで「朗人の幸子さん」の真心に応えることにしました。

年金生活の中から，お金を少しずつため，震災にあった子どもたちのために毎年義援金を贈るということはなかなかできることではありません。そもそも，匿名でのご芳志ですので，お礼をお伝えたくても伝えることができません。何とか感謝の気持ちを伝えられないかと思い，静岡県内のメディアに情報を流すことにしました。メディアによる情報発信で届けることができればとの発想です。これは，幸子さんの意図するところではないかもしれませんが，お世話になった方へは感謝の気持ちを届けることの大切さを子どもたちに感じてほしかったからからです。図書委員会の子どもたちが中心となって，M小の子どもたちの様子がわかる記事や動画を静岡新聞や静岡ＳＢＳ放送に送り，静岡県内に発信してもらいました。

結局，幸子さんに関する情報は得ることができませんでしたが，子どもたちの気持ちは，幸子さんに届いたのではないかと，今でも思っています。静岡に住む「朗人の幸子」さん，今でもお元気ですか？ その当時M小の児童だったO．R君，今は，本園で教諭として元気に子どもたちと過ごしていますよ。

(園長の思い出話)